

☼ 観察者と保育者の対話 (9)

……… 観察者から保育者へ

先日は温かく迎え入れてくださりどうもありがとうございます。前日までの天気とは大きく変わり、朝から雲行きが怪しく今にも雨が降りだしそうなか、観察に入りました。

年長組・もみじ組は園舎の二階で、園庭が見渡せる位置にありました。子どもたちは朝、窓辺から全体の様子を感じ取りつつ一日の生活を始めているようでした。

朝から友達と一緒に園舎の中を動き回りながらも、彼らとけんか別れをしたY男に出会いました。Y男は目をこすりながら友達といった園庭から立ち去り、少し離れた柱からじっと彼らの方を見ていました。その後、近くのテラスへ座り込み、脱いでいた靴下と上履きをゆつくりと履き始めました。角度を

変えて彼を見ると、彼の後ろには、ほかの子と虫を探している石野先生の姿がありました。

Y男はとほとほと二階へ向かい、園庭が一望できるベランダに出ました。外ではザーツと音を立てて雨が降りだしていました。降り落ちる雨とベランダに座り込んで下を見つめる彼の姿とが、どこか重なるように見えました。周りでは元気な子どもたちの声が聞こえる中、そこは静かな空間となっていたように思います。

Y男は立ち上がり、開けたホールへと向かって歩き始め、歩く中でふと一緒になった隣の組の先生と一緒に、その組の前へと行きました。部屋の入り口にある柱から、そっと中をのぞくY男。その視線の先にはA子の存在がありました。柱にもたれつつ、中をのぞいてみたり、A子に近づいては戻ったり…。それを繰り返す中で、A子もY男の存在に気づ

くようになり、二人は追いかけたり、追いかけられ
たりという行為を繰り返し始めました。そのうち
に、だんだんと動きが大きくなり、楽しそうな声を
上げる姿が見られるようになりました。そしてY男
の表情に笑顔が戻ってきたのが印象的でした。

胸が苦しくなるような出来事に出会う中でも、そ
こに凝り固まってしまうのではなく、何かしらの動
きを取りながら進んでいくY男の姿を見て、大げさ
かもしれませんが、私自身の在り方にも気づきを与
えてくれたように思います。

このようなY男の姿と、先生のY男への思い、こ
れまでの流れなどを合わせて聞かせてください。

……… …保育者から観察者へ

もみじ組の部屋は、園庭やリズム室を見渡すこと
のできる、幼稚園の中でもとても良い環境に置かれ
ていると思います。部屋はもちろん、いろいろな場
の遊びに刺激を受けながら、意欲的に生活できるよ

うになっています。

この日は、前日までの天候とうって変わってのあ
いにくのお天気でしたね。前日まで暑い暑い日が続
き、「さすがに：プールを出そうか」と先生たちの
間でも話が出るほどでしたので、久々の恵みの雨と
でもいいでしょうか。園庭の緑、生命、遠足で植え
た芋苗もきつと喜んだことでしょう。子どもたちに
とつてもちよつとした休日になっていたように思
います。ただ、前日まで戸外で泥んこ・水遊びを繰
り返していた子どもたちが、どうやって過ごすのだ
ろうという思いもありました。

Y男の記録を読み、正直ともうれしくなりまし
た。「けんか別れ」「ひとりの静かな空間」にどうし
て？ と疑問に思われるかもしれませんが、私は年
中組から引き続き担任をしていますので、Y男の成
長がとても大きく感じられたからだと思います。

年中組のころのY男は、自分の思いがかなわない

ことがあると、言い返すこともできぬまま、大声で泣きながら部屋から飛び出していつていました。周りの子どもたちがY男を心配し、捜して話を聞いていた、連れて戻ったりしてきましたが、浮かない顔をして降園していくこともありました。友達に「あっちへいけ」と、拒否することもありました。気持ちが悪く着くまで、そして自分の力で立ち上がるまで、私とふたり、一緒にいたこともあります。私のひざに顔をうずめて泣いていたこともあります。年長組になり、私や友達との時間を重ねながら、次第に自分の力で前へ進もうとする姿が見られるようになってきました。

このひとりの時間は、自分自身と向き合い、自分の力で気持ちを立て直していく、大切な時間になっていたのではないかと思います。そして、やはり大好きな友達の大存在が大きいですね。くつついたり、離れたら…楽しいことばかりではないけれど、やっ

ぱり友達と一緒にいいな！と感じられていることが、次の一歩へとつながっていくのだと思います。



…再び観察者から保育者へ

これまでの、友達や先生との幼稚園での一つひとつの生活の積み重ねの中の今を見たということですね。

先生の「ひとりの時間は、自分自身と向き合い、自分の力で気持ちを立て直していく、大切な時間になっていたのではないかと思います」との言葉がとても印象的でした。ひとりになれる時間が保障されている、そんな幼稚園が素敵だと思います。友達の大存在、そして年中児からY男とかかわってきた石野先生との関係がある中での「ひとりの時間」だっ

たのですね。

また幼稚園の造りもすごく印象的でした。上と下とを結ぶ階段が四つもある園舎。年中児と年長児が過ごす建物は、ただの四角い箱ではなく、直線と曲線が入り混じった不思議な居心地のいい空間でした。そんな画一的でない子どもたちが過ごす場所もまた、日々いろいろな想いを抱いて生きている子どもたちの姿を支えているのではないかと感じました。Y男が一人でいたベランダも、直線と直線が直交する間に生まれた隠れ家のような場所でした。

もう一つ、先生にお聞きしたいことがあります。

Y男の姿を追いながらふと感じたことです。午前中は何となくわさわさする雰囲気幼稚園に漂っていたように感じていました。しかし、お弁当を食べた後の子どもたちの動きが少し変わり、一つひとつのかかわりがつながって大きくなり、子どもたちの笑顔が多く見られたように感じられました。先生がかわりの中で感じておられたことや、気をつけられ

たこと、エピソードがありましたら聞かせてください。

…再び保育者から観察者へ

少しぐらいの雨なら園庭で、雨の日ならではの遊びを見つけ楽しむ子どもたち。でも、この日は真っ暗になっていく空を部屋からじっと見つめています。今にも降りだしそうな梅雨空の下、虫探しをする子どもたちもいましたが、室内でも子どもたちのエネルギーがあふれていましたね。

午前中の片づけの前に、K男が「水族館をみんなでしょうと思うんだけど…」と私に伝えてきました。そこには、みんなで水族館ごっこをしたいけれども、それぞれがいろんな方向を向いているのでなかなか思いが実現できなくて困っている、どうしたら良いのだろう…と悩む姿がありました。——もみじ組では、地曳網遠足後、子どもたちが魚を描いた

り、作ったりして海の世界を楽しみました。それが、昨年度遠足で行った水族館とも合わさって、部屋の片隅に、大きな水中トンネルが現れたのです。ところが、次の日から暑い日が続き、子どもたちはすっかり戸外での水遊びに夢中になっていったのです。私は、この水中トンネルのある水族館でまだまだいろいろな遊び方をしたいなと思っていましたので、片づけずに置いていました。

この時のK男の言葉に、私ははつとさせられました。昨日までとは違う姿を見せるだろう…とは思っていましたが、私もそれぞれが何か物足りなさを感じている、楽しみを探しているなという姿を感じました。きつとK男のように、それぞれがやりたいこととはあるものどこかつながっていかない部分が多く、もどかしさを感じていたのだと思います。友達とのつながりを求め、楽しむ姿は、前日までもたくさん見られた姿であったのに…。私は大切なこと

に気づかされた気がしました。

みんなで集まった時に、K男の思いを伝える場をつくりました。そうすると、「今日はこんなことをしたよ!」という話が子どもたちからたくさん出てきました。昼食後、さっそくその話に興味をもった子が集まり、かかわって、水族館ごっこが始まりました。そして、いろいろなところで友達とつながっていく姿がありました。

あふれるエネルギーをもった子どもたちの目が、友達とのかかわりにより、さらに輝いていましたね。集まった時に、K男の思いを伝える場をもったことはほんのきっかけに過ぎないと思いますが、みんなにも子どもたちの生活が目に見えて変わっていったことには私も驚きました。

子どもたちの生活を支える難しさ、そこにかかわる喜びを感じながら毎日を過ごしています。

観察者 井上知香（お茶の水女子大学大学院）

保育者 石野直子（大和郷幼稚園）